

上田市立神科小学校

総合的な学習の時間 4 学年

小単元名「野菜を育てて販売しよう」

授業者 小林 菜奈美（4年2組担任）

指導者 池内 周己（北信教育事務所学校教育課指導主事）

1 本時の主眼

作ってきた野菜や果物をこれまでの自分たちの思いが届くように販売したいと願っている子どもたちが、紙やタブレットなどを使って自分たちの思いを表現する場面で、前時もらった先生方のアドバイスをもとに、自分たちの表現の課題に着目し、話し合うことを通して、自分たちの思いをより良く伝えるために工夫することができる。

2 視聴覚機器の役割

紙媒体で行っていた観察記録を ICT 機器に移行する試みを行い、学びの選択肢を広げた。クロームブックを活用し、児童が国語、社会、図工、体育などの各教科で自身の思いを ICT 機器で表現する活動を取り入れた。これにより、学習の幅が広がると同時に、紙以外の媒体で自己表現する新たな方法が提示された。また、インターネットを活用して農業法人やスーパーの情報を収集し、時間や距離の制約を超えた学びを実現した。

使用機器と具体例

クロームブックのカメラ機能や Google スライドを使用して栽培過程を記録し、Canva を利用した広告やポップ作成にも挑戦した。児童はタイピング、音声入力、手書きといった多様な方法を選び、ICT を活用した自己表現の幅を広げた。一方で、アナログな媒体を選択した児童の選択も尊重した。

3 授業の概要

前時では、大人（学校職員）に制作物を見せ、アドバイスを受けた後、グループごとに作品を共同編集し改善した。成果物の自由度を高めた結果、多くの児童が Canva を選んだ。授業の最後には代表グループによる成果物を鑑賞し、伝えたい思いを確認する場を設けた。

4 研究会の要点

○ICT 活用の効果として以下の点が挙げられた

意欲の向上：言葉に苦手意識がある児童でも、イラストや写真から始めることで意欲を維持でき、文章にも挑戦する姿勢が見られた。

トライ&エラーの重要性：Canva の機能を使い、児童が試行錯誤しやすい環境が提供された。

他者の作品への関心を引き出す仕組み：グループ間での交流や相互評価の場を設けることで、児童間の学び合いが促進された。

●挙げられた課題

ICT のスキル差：Canva や動画編集スキルの習得には時間が必要であり、全員が同様の成果を出せるわけではない。

協働作業の難しさ：共同編集では、他者の作業を上書きしてしまうトラブルも発生し、話し合いや役割分担の重要性が浮き彫りとなった。



5 指導者の助言

自らの作品に工夫を加え、「伝えたい思い」を形にする姿が見られた。背景を変え、写真を選び、「おいしく食べてほしい」という思いを文字で表現した。また、育てた野菜の写真やハート型の背景を用い、国語や図工の見方・考え方を生かしたデザインを作成した。児童たちはアドバイスを受けながら、自分たちの思いを深めると同時に、相手にどう伝えるかを考えていた。授業者は ICT を活用した活動を支え、「目標に立ち返る問いかけ」や「共感的な受け止め」によって児童の成長を促した。「声なき対話」を大切にしていけることが重要である。

6 今後の課題

目的意識の明確化：ICT を「使うこと」が目的にならないよう、「何を学ぶために使うのか」を意識した授業設計が求められる。

教員のスキル向上：ICT による児童の思考の変化に対応するため、教員自身のスキルアップが必要。

協働作業の工夫：ICT 機器の利用が個別作業に偏りがちなため、共同編集のルールや役割分担を明確にすることが求められる。